

相模原市立相模川ふれあい科学館指定管理者選考委員会の議事概要及び選考の概要

1 日時

令和5年9月26日(火) 午前9時20分から午前11時00分まで

2 会場

相模原市役所職員会館4階会議室1

3 出席者

- (1) 相模原市立相模川ふれあい科学館指定管理者選考委員会委員 4名
- (2) 事務局(環境経済局水みどり環境課) 3名

4 選考委員会の委員の構成

- (1) NPO法人職員(委員長) 1名
- (2) 大学教授 1名
- (3) 公認会計士 1名
- (4) 市職員 1名

5 公開の可否

相模原市立相模川ふれあい科学館指定管理者選考委員会設置要綱第8条により非公開とした。

6 議題

- (1) 提案説明会
- (2) 書類審査の結果報告
- (3) 申請団体の経営状況の確認
- (4) 採点
- (5) 意見交換

7 議事概要

(1) 提案説明会

申請団体からの提案説明を受け、それに対して選考委員会委員が質疑応答を行った。

ア 株式会社江ノ島マリンコーポレーション

(主な質疑応答)

委員： 決算書を見た上での確認だが、報告以後の直近期、本年4月以降に重要な訴訟が起きた、事業譲渡をしたといった後発事象はあったか。

申請団体： なかった。

委員： 生物への関心が高まってきているといった世相や、新型コロナウイルスによって人々が遠出できなかったといった状況は、水族館経営において追い風になったのではないかと感じているが、今後についてはどのように捉えているのか。

申請団体： 個別の施設運営という視点で見ると、新型コロナウイルスの影響が一巡した後の現況については、コロナ以前と比較して入館者数は9割方戻ってきている。これを毀損することなく、なだらかに伸ばしていけるよう施策を打っていく、各施設において努力しているという認識である。

また、業界全体として、海棲哺乳動物の飼育に対するデモ活動など、動物愛護団体からの圧力が高まっている状態にあるが、水産庁や文化庁といった関係省庁とも連携して、博物館登録施設であるということだけでなく、教育や研究分野における役割を加えるなど、水族館の位置づけ、存在意義を高めていくような法規制の検討が行われている。こういった活動が国民に認知されていくことが、水族館に対するイメージアップにもつながっていくと考えている。

委員： 自分が子どもの頃は好きな人が行く施設というイメージだったが、地域な身近な施設という認識に変わってきたと思っており、新たな拠点としての水族館には期待している。

経営に際してはリピーターを増やしていくことを考えなければならないと思うが、最初の目を引く展示から、少し専門的、学術的な方向に入っていけるようにしていく工夫、これらのウエートの置き方は非常に難しいと思っている。目を引く展示で来館者を喜ばせることとリピーターの獲得にもつながる勉強させる機能のバランスについてはどう考えているか。

申請団体： 科学館の設置基準と大きな意味での基本理念が展示におけるストーリーラインにつながっており、これはベースとしてぶれてはいけないと思っている。そこをより掘り下げて、生態を示すという学術的な部分の価値を来館者に伝えるということについては常々研鑽していかなければならないと認識している。それと同時に、来館者の目的は非常に多様化してきており、家族やカップルが滞在する際の居心地の良さといった空間的な部分を求めている方もいる。そこに対して何を追求していくか、例えば組織的な業務展開でも、空間に見合ったデザイン、演出、イベントといった部分に精通した職員の採用なども増えており、提供するサービスも多様化している。どこにウエートを置くかは難しく、季節の変化や注力すべきタイミング等によって多少変わってくると思う。

ベース以外の部分のコンテンツは無限に増えていくと捉えている。そのことが来館者への価値の提供につながっていくという認識

を常に社員間でも共有しており、今後も広がっていくものと期待している。

委員： 新規の提案、新設展示なども計画されているようだが、今後行おうとしていることについて、こういったコンセプトかなどを説明いただきたい。

申請団体： 新設の水槽の展開については、第1期、第2期と実施しているが、地域活性化事業という形での後押しもあり、積極的に取り組み、来館者からもいい反応をいただいた。

小さな水族館なのでもっと多くの生き物を見たいという声があったこと、人ゾーンの回遊性が非常に悪く、もったいない空間があったことから、初めに、床下に上から見ることができると水上散歩水槽を整備、地域活性化事業として、「川原の石」や「水生昆虫水槽」を整備した。

それとは別に、前の指定管理期間になるが、小さな可愛い生き物が見たいという声を受けて、海の小さな生き物の展示に関して市に提案して、入口の所に「ミニトク水槽」を整備した。こういった取組については、その都度手応えがあったため、新型コロナウイルスを契機に、館内の回遊性を見直し、お客様の空間としてももったいないところに関して整備してきたところである。もうやりつくした感があり、2022年度には年間227,000人という、整備前の倍近く、非常に多くの来館者数を記録している。

そろそろ限界だが、そこからは勝負だと思っているので、知恵を絞ってやっていきたいと考えている。今回、例えば、サクラマスを展示している一番大きな水槽を違うものにできないかといった、視点を変えた新しい提案をいくつか出している。まだ、アイデアの段階であり、市と協議してから進めていくものだが、現存しているものの見直し、また、大胆にお金をかけなければいけないところについて提案させていただいている。

小さい水族館であるという中で、テーマや展示する生き物を切り替えるなど、来館者を飽きさせない工夫は常々しているが、新設水槽はインパクトがあるので、工夫しながら提案していきたいと考えている。最大の問題は、こういった工夫をしても駐車場が99台しかないなので、やればやるほど首が締まっていくというジレンマがある。

来館者については軽い気持ちで、エンターテインメント性等を求めていらっしゃるが、生き物を通じて色々な世界があるということを感じ、学んでもらうということを経営していくことが大事であり、新しいものの見方の一つのきっかけとなるよう提供していきたい。

申請団体： 海水系の展示も織り交ぜていきたいと思っており、「相模湾水槽」という海水の水槽をリニューアルしたい。相模湾は、相模川から様々

な生命、栄養分等が運ばれる先であるという点で非常に関連性があり、相模川がいかに相模湾の生態系を育んでいるかという意味でも展示する価値がある。その水槽においては、居心地のよさの観点、来館者に楽しんでいただける要素となるよう、クラゲの展示などにも注力していきたい。

委員： 地域活性化、市や地域との連携に対する考え方ということで、実績事例として市催事へのブース出展とあるが、ここで新型コロナウイルス感染症が収束し、市民若葉まつりなど、市の催事も再開してきている。こういった場には非常に多くの方が集まるということで、さまざまな団体が特色を紹介するよい機会となっている。土日や祝日といった繁忙期と重なるため、科学館の営業との兼ね合いがあると思うが、そういった場でミニ水槽の展示などによるPR等を行うことは可能か伺う。

申請団体： 以前はゴールデンウィークの地元のイベントで水槽を展示しており、そういった場における展示は検討に値すると思っている。また、田名北小学校などにおいて、学校内での水槽展示に協力しており、こういった活動の方が子供たちにとっては一過性なものではなく実効性もあるため、今後も展開していきたい。もちろん桜まつりなどへの出展についても、やり方の部分から検討できると考えている。

委員： 子供たち非常に喜ぶので、小規模でも協力いただければと思っている。

申請団体： 懸念している事項として、動物への配慮について、世間の関心が高くなっている。ブース展示については、動物にとって非常に過酷な環境になることがあり、特にふれあい事業については愛護団体の中止活動もあり、ほとんどのところで実施していない状況である。生き物への関心を持ってもらうという大事な役割もあることから、最大限配慮しながらバランスを取りつつやっていきたい。

委員： 収支予算書の総括表で、新設展示については計画段階であるということだったが、ここには入っていないという理解でよいか。また、もしそういった展示が始まることになった場合、協議になるのだろうが、設備については市が、ランニングコストについては指定管理者が負担することになるのか。

申請団体： 現状、設置しているものについては、減価償却に入れているところもあるので、どのようにするのは市と協議して決めることとなる。

委員： 給与手当のところだが、3～4%くらいの上昇を見込んでおられるが、これは定期昇給部分を考えられたのか。それともベースアップも含めて考えられたのか。

申請団体： 定期昇給、ベースアップ込みで積算している。

委員： 金額の大きいところを確認するが、16の施設運営費については外注費ということよろしいか。

申請団体： その通りである。

委員： 次に22の水道光熱費の上昇率が最初4%で徐々に下がっているが、昨今気になるところなので考え方について伺う。

申請団体： 昨年度の時点で大変なことになっており、今年度においては業者の見込みにより予算を設定した。現状においてはそれを下回る経済環境になっているが、誰も予想できない部分である。算定時から考えて、上昇はするだろうが、日本政府も何らかの手立てを講じるので徐々に下がっていくだろうと設定して、数値を出したということである。

委員： そういった様々な過程においても、令和10年度、収支において市の事業は厳しい状況になっているが、それを指定管理者が自主事業において頑張っており、経営しているという図式なのかなと思う。

(2) 書類審査の結果について、募集要項に基づく資格要件の事前審査を行った結果、各審査項目において問題がなく、申請団体が資格要件を満たしている旨を事務局より報告した。

(3) 申請団体の経営状況について、適正である旨が公認会計士である委員より説明された。

(4) 各選考委員会委員が評価基準に基づき採点を行った。

(5) 事務局から申請団体の合計得点を伝え、選考委員会委員で意見交換を行った。

※ 選考委員会は申請団体名ブラインド化しており、当日はA社としていた。

<選考の概要>

1 選考結果

株式会社江ノ島マリンコーポレーションを指定管理者候補団体とすることとした。

2 選考理由

(1) 評価基準に基づく各選考委員会委員の採点の結果、最低基準点を超え、かつ高い得点を得たこと。

(2) 各評価項目において、施設設置目的に照らして適正な施設運営が行われる水準を満たしており、かつ、市民サービスの向上が図られるものと評価したこと。

(3) 候補団体の経営状況が良好であり、継続的な管理運営が期待できること。

3 評価基準・評価結果

指定管理者候補団体（株式会社江ノ島マリンコーポレーション）の評価基準に基づく評価結果は、次のとおりです。

評価項目		配点	候補団体
事業計画書に対する評価			
内 訳	指定管理者の適性	20	17
	管理運営方針	20	18

	地域活性化	60	16
	計画事業（自主事業を除く）	60	57
	自主事業	40	54
	利用者ニーズ	40	28
	維持管理計画	40	28
	人員配置	40	28
	安全管理及び緊急時の対応	40	30
	適正な管理・経理	20	14
	小計	360	290
収支計画・経費的効果に対する評価		/	
内 訳	収支計画の妥当性	20	14
	指定管理料の削減	20	12
	利益の還元	20	14
	小計	60	40
管理を行う能力に対する評価（団体本体に対する評価）		/	
内 訳	団体の経営状況	20	18
	団体の管理能力	20	17
	労働環境の適正性	20	13
	小計	60	48
合計		480	378

※ 合計得点における最低基準点は288点としました。